

雪氷写真館 9

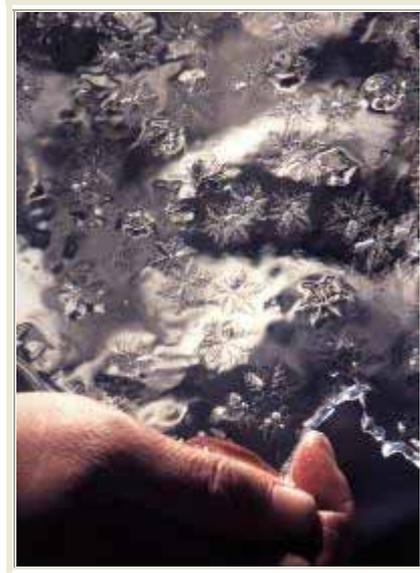


写真 1. ネパールヒマラヤ、クンブ氷河上の池で見つけたティンダル像



写真 2. 8000m 峰をバックにティンダル像を見る

ヒマラヤで見つけたティンダル像

ティンダル像は、1855年ティンダルがスイスアルプスの湖の氷の中で発見したことからこの名前が付いていますが、本格的な研究は中谷宇吉郎によって始められました。ティンダル像は氷の内部融解現象で、透明な氷を太陽にかざしたときに氷の内部に形成され、典型的なものは六花の雪の結晶の形をしています。また自然界では天気の良い朝方に夜間に張った比較的新しい氷の中に見ることができます。写真のティンダル像はネパールヒマラヤ、クンブ氷河上の池で見つけたものです。大きいもので直径約1cmのティンダル像を観察することができました。8000m級の山々に囲まれた氷河上で見るティンダル像は、日本で見るものとはひと味違った趣がありました。

矢吹 裕伯 会員(地球フロンティア研究システム)撮影